

できない中で、できることを

コロナ禍でオレンジリボンの認知拡大をいち早く目指した活動

「オレンジリボン運動」の認知拡大をいち早く目指した活動



和光大学 がんのゼミ

和光大学ってどこ？



- 東京都町田市にある創立50数年の大学。
- 文系3学部（現代人間学部，表現学部，経済経営学部）。
- 自然豊かで自由な校風。

和光大学の「今」



大学への入校禁止、講義のオンライン化を初め、和光大学の自由な校風が生み出した個性豊かな大学祭、アジアフェスタ等のイベントは全て中止に・・・。

あらゆる活動が制限される中で、私達のオレンジリボン運動はスタートしました。

私達が取り組んだこと

児童虐待をテーマにした本の
POP作成

オレンジリボン運動に関する
テーマを扱った一分動画作成



かんのゼミ

@kannozemi_wako

和光大学心理教育学科の菅野(かんの)ゼミです！ 🧡 #学生によるオレンジリボン運動 として【189(いちはやく)】の認知拡大を目指しています。 #児童虐待防止月間 である11月は毎週日曜に #かんのゼミ1分動画 を投稿予定！ 私たちの活動風景なども発信していくのでフォローよろしくお願いします 🧡

📍 東京 町田市

📅 2020年10月からTwitterを利用しています

27 フォロー中 42 フォロワー

ツイート ツイートと返信 メディア いいね

Twitter

Instagram



kannozemi

フォローする

かんのゼミ

和光大学心理教育学科の菅野(かんの)ゼミです！ 🧡 #学生によるオレンジリボン運動 として

【189(いちはやく)】の認知拡大を目指しています。

#児童虐待防止月間 である11月は毎週日曜に #かんのゼミ1分動画 を投稿予定！

私たちの活動風景なども発信していくのでフォローよろしくお願いします 🧡

twitter.com/kannozemi_wako

S N S を活用したオレンジリボン運動

児童虐待の関連本からPOP作成！



POP作成風景

対面での活動が行えたのは
1年を通してたったの4回、
できない中で、できること
を模索し続けました！

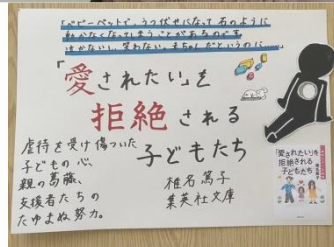
かのゼミ
@kannozeimi_wako

POP紹介

菅野ゼミ生が作った虐待に関する本の紹介POPです
これから紹介していくPOPは、町田市
市内の図書館で掲示させていただく
予定です！
こちらでも紹介していきたいと思
います

#学生によるオレンジリボン運動
#児童虐待防止推進月間
#オレンジリボン運動

虐待を受け傷ついた
子どもたち
子どもの心
親の葛藤
支援者たちの
たゆみぬ努力。



「愛されたい」を拒絶される子どもたち 虐待が
いいね！9件
kannozeimi POP紹介
菅野ゼミ生が作った虐待に関する本の紹介POPです
これから紹介していくPOPは、町田市市内の図書館で掲示さ
せていただく予定です！
こちらでも紹介していきたいと思
います
#学生によるオレンジリボン運動 いちちゃんと親から存在
#児童虐待防止推進月間 子など、想像を絶する虐待を受け
#オレンジリボン運動 アを、専門家たちがどのようにケア
るかを学ぶ機会が得られます
○「愛されたい」を拒絶される子どもたち 虐待ケアへの
挑戦 (集英社文庫) 作成: ちい
作成者コメント: います
虐待は、身近なところに潜んでいます。或いはあなた
自身も、無関係とは思いきることは出来ないという事
が、本を読んでいただければ分かると思います。誰で
も加害者になりうるのです。
是非お手にとってみてください。



専用のSNSアカウントに毎
週投稿！反応をいただきま
した。

「愛されたい」を拒絶される子どもたち 虐待ケアへの挑戦

集英社文庫

制作者：ちい

作成したPOPの紹介



「ベビーベッドで、うつ伏せになって石のように
動かなくなってしまうことがあるのです。
泣かない。笑わない。赤ちゃんだというのに……」

「愛されたい」を
拒絶される

虐待を受け傷ついた
子どもの心

親の葛藤、
支援者たちの
たゆまぬ努力。

子どもたち

椎名篤子
集英社文庫



○「愛されたい」を拒絶される子どもたち 虐待ケアへの挑戦 (集英社文庫) 作成:ちい

作成者コメント:

この本は、重い虐待を受けた子どもたちが、専門家たちが様々なアプローチで、心のケアをしていこうと努力する様子が描かれている、ノンフィクションの物語です。

笑うこと、泣くことを知らない赤ちゃんや親から存在を隠され続けた女の子など、想像を絶する虐待を受けた子どもたちのケアを、専門家たちがどのようにケアをするのか。四苦八苦しながら、子どもたちと本気で向き合う現場の様子が、ストーリー仕立てで分かりやすく書いてあります。

虐待は、身近なところに潜んでいます。或いはあなた自身も、無関係とは言いきることは出来ないという事が、本を読んでいただければ分かると思います。誰でも加害者になりうるのです。

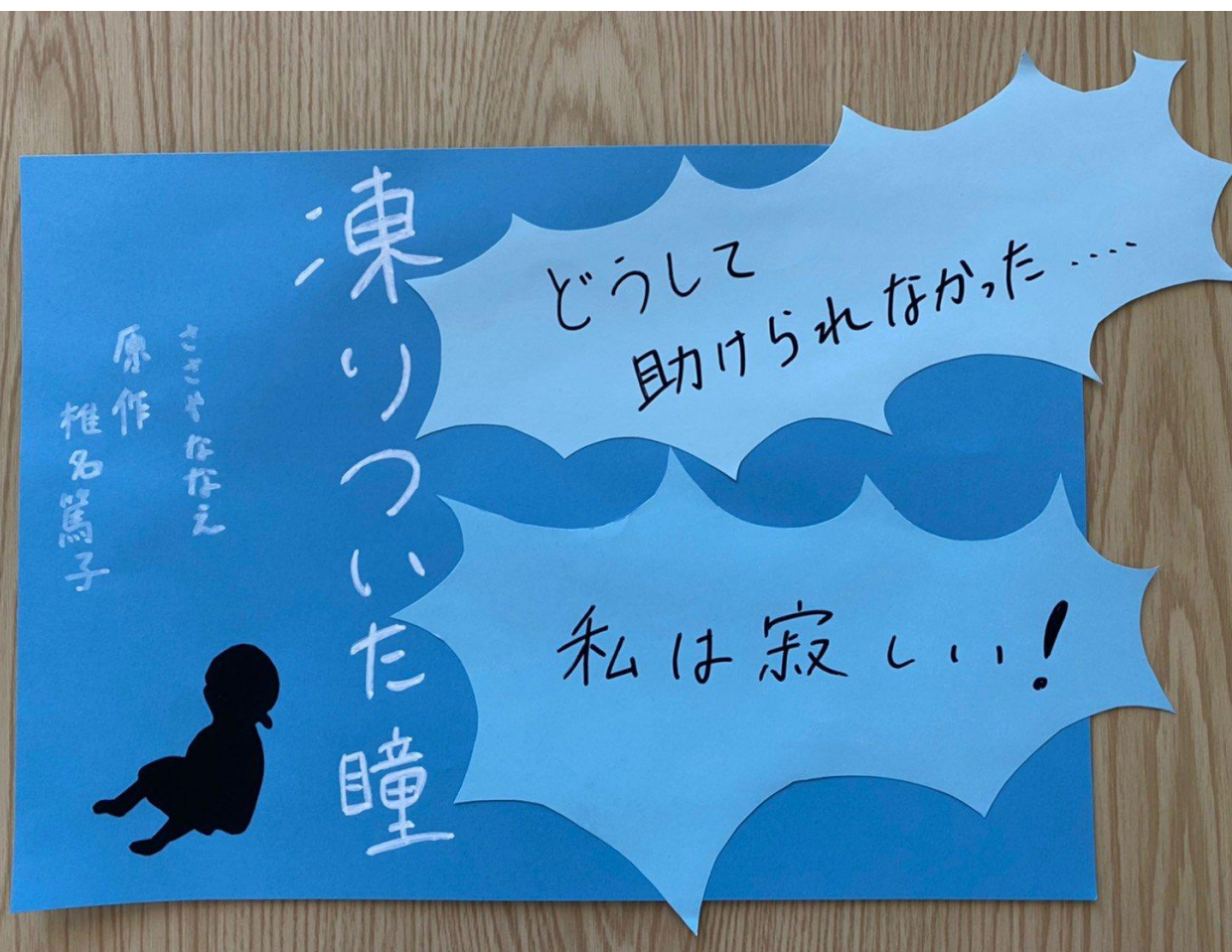
是非お手に取ってみてください。

凍り付いた瞳

集英社文庫（コミック版）

制作者：ないない

作成したPOPの紹介



○新 凍りついた瞳 (集英社文庫(コミック版)) 作成:
ないない

作成者コメント:

この本は、実際に起きた児童虐待の事例ドキュメンタリーをコミカライズしたものです。虐待された子供のその後の人生や子供たちを救うため奮闘する大人たちが、描かれています。読んでいるうちに心がしんどくなる時もありますが、目が離せない知っておかなければと思わされる作品です。ぜひお手に取ってみてください。

児童虐待から考える 社会は家族に何を強いてきたか

朝日新書

制作者：あやか

作成したPOPの紹介



○ 児童虐待から考える 社会は家族に何を強いてきたか (朝日新書) 作成者:あやか

作成者コメント:

様々な理由で自分の子供を育てられなくなった親はたくさんいます。「家族」のかたち、「家族」の繋がりは何が原因で壊れてしまうのでしょうか。児童虐待は現在も増え続けている大きな問題の一つです。様々な児童虐待の事件と、日本社会の背景はどのような関連性があるのか。そもそも「正しい子育て」とは一体何なのか。実際に起きた多くの児童虐待事件の取材内容と同時に、起きている児童虐待の現実問題やその大きさを知る事ができる一冊です。どうすれば私たちは子供を救うことができるのか。家族のあるべき形とは何なのかを日本社会の背景と重ねて考えられる作品です。是非お手に取っていただけたらと思います。



子ども虐待
なぜ親が子を？傷ついた心をどう癒やすのか？
講談社現代新書

制作者：りゅうせい

作成したPOPの紹介



○子ども虐待 なぜ親が子を？傷ついた心をどう癒すのか？(講談社現代新書) 西澤 哲

この本は筆者が30年にわたって虐待の臨床心理に取り組みその経験を通して実例を出しながらその問題に対して語っている本となっています。冒頭に数人の子どもの名前が出てきますが、そこには子どもが受けてきた虐待が生々しく書かれています。「なぜ親が子どもを虐待するのか」「虐待を受けた子どもの心をどう癒すのか」「虐待された子どもにどのような影響があるのか」など様々なことが書かれています。現代は虐待や通告件数などが増加しています。この本を読むことでとても考えさせられました。子どもに興味がある方、将来関わるかもしれない方にはとても良い本です。是非見てください。

子ども
虐待

傷ついた子どもの心はどうするの？

親に虐待を受けた子どもは場合に

よっては親が最大の恐怖の源
になる!!

代理性
ミュンヒハウゼン
症候群とは
何？

乳児
様さぶらわ
症候群とは
何？

「母がしんどい」

KADOKAWA/中経出版

制作者：えりぴ

作成したPOPの紹介



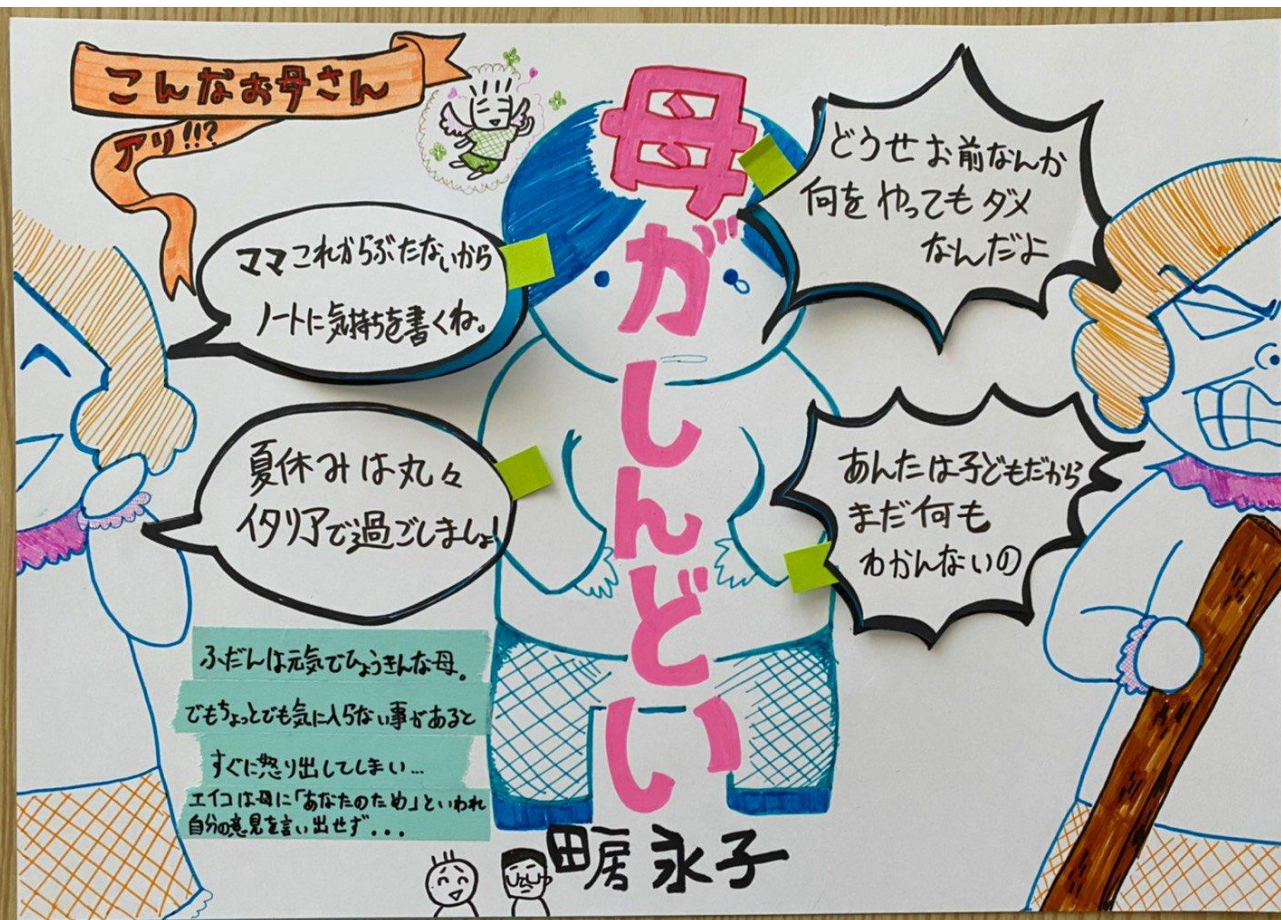
○「母がしんどい」 田房永子 著 KADOKAWA/中経出版 作成：えりぴ

作成者コメント：

本作品は創作ではなく著者本人が体験したことをコミックエッセイにしたものです。

「自分のお母さん、なんか変？」と感じたことはありますか？世の中に完璧な親は存在しませんが、

「ちょっと変わってる」では片付けられないくらい親が自分の生活に干渉してきたり、自分の行動に文句を言ってきたり、またそれに対し文句を言った際喧嘩になったことはありませんか？または「言う通りにすれば上手くいく」「まだ子どもだからあんたは分からないの」「あなたのことを思って言ってるのよ」と言われたことは？誰しもが体験したことのあるかもしれないエピソードの中でエイコの母から見え隠れする本心。家族との生活に違和感を感じながらも大人になるまで自分の精神的な痛み気づかなかったエイコ。気づいたときには母親のことを考えるだけで体が震えだしてしまう。肉体的虐待ではないので気付きにくい傷かもしれませんが、言葉が重なれば気づかなくともどのような形になって現れるのかが分かりやすく描かれています。



書籍リスト

タイトル	著者/出版者
「愛されたい」を拒絶される子どもたち	椎名 篤子/集英社文庫
凍り付いた瞳	ささや ななえ/集英社文庫（コミック版）
児童虐待から考える 社会は家族に何を強いてきたか	杉山 春/朝日新書
子ども虐待 なぜ親が子を？傷ついた心をどう癒やすのか？	西澤 哲/講談社現代新書
「母がしんどい」	田房 永子/KADOKAWA, 中経出版

児童虐待に関する一分動画作成！



動画作りに不慣れな人も多い中、限られた時間、環境で協力し合いながら作成しました！

2020, 11月
毎週日曜日投稿
計5本

動画の最後にはゼミ生が作成した画像を表示し、各ツールとの繋がりを意識しました。

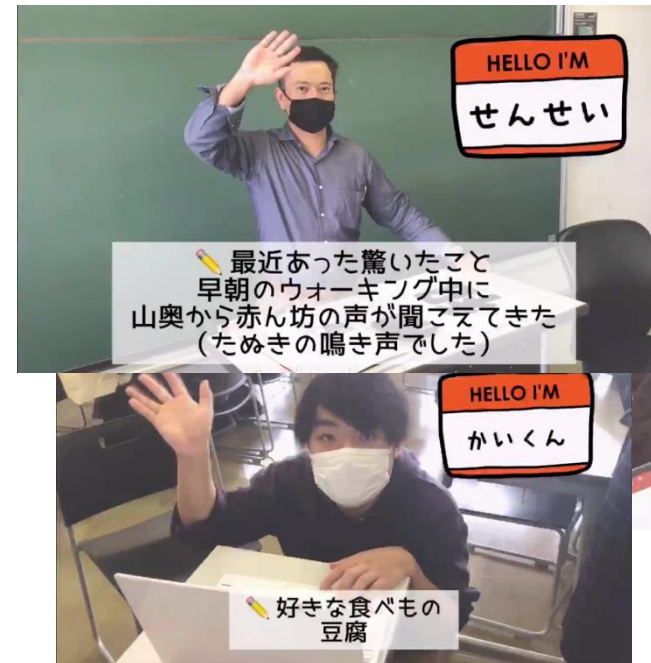


動画撮影の様子

「はじめまして！かんのゼミです」

制作者：みくちい

作成した一分動画の紹介



動画URL ●https://twitter.com/kannozemi_wako/status/1322826359387779073?s=21

「189ってなにー??」

制作者：おのちゃん

作成した一分動画の紹介



かんのゼミ2020

[189(いちはやく)]ってなにー??

虐待による死亡事例は年間50件
を超え、1週間に1人の子供が
命を落としています。



動画URL ●https://twitter.com/kannozemi_wako/status/1325438620803629056?s=21

「チャイボラについて」

制作者：じょうくん

作成した一分動画の紹介



最近あった驚いたこと
早朝のウォーキング中に
里から赤ん坊の声が聞こえ
ためきの鳴き声で

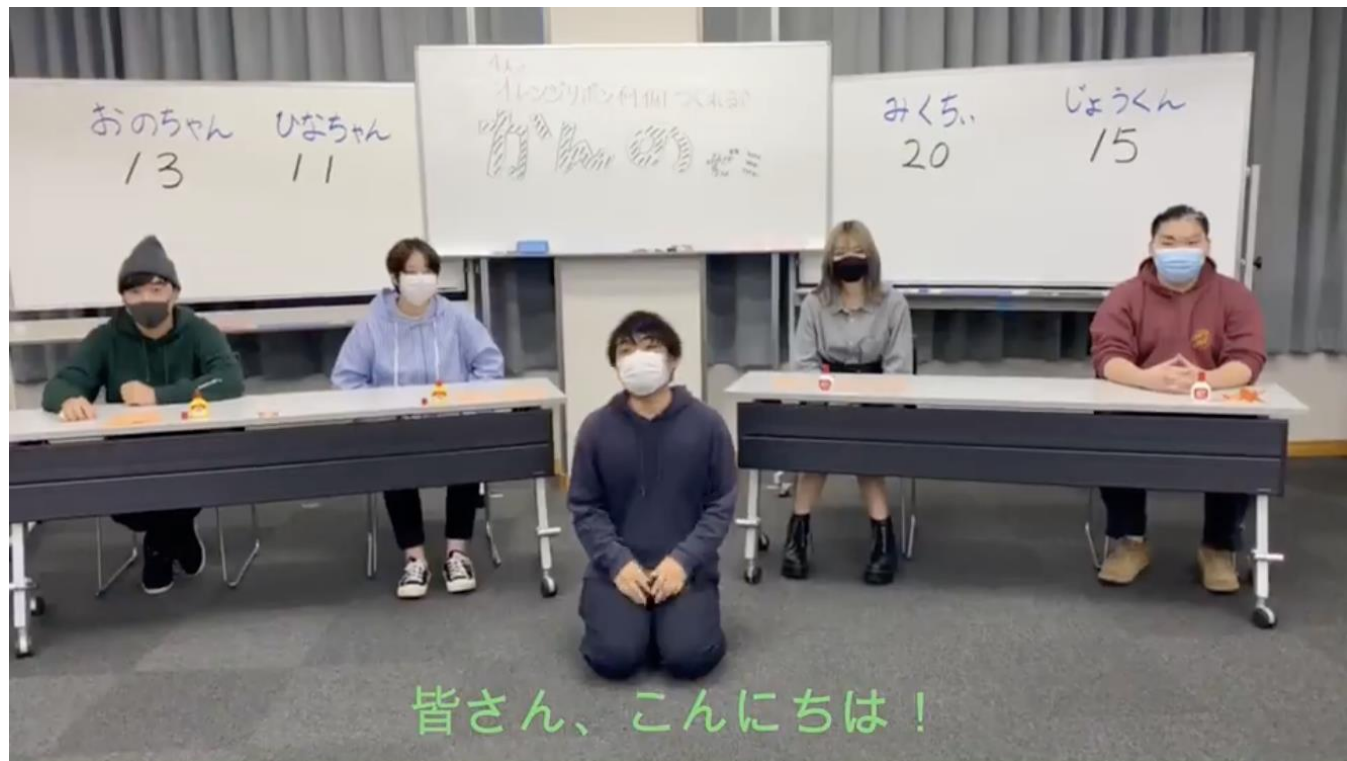


動画URL ●https://twitter.com/kannozemi_wako/status/1327816074453164033?s=21

「オレンジリボン一分チャレンジ！」

制作者：かいくん

作成した一分動画の紹介



ルール

一分で四人がオレンジリボンを制作

ホワイトボードに書かれた予想個数に最も近い人が勝利！

おのちゃん

13

ひなちゃん

11

みくちい

20

じょうくん

15

動画URL ● https://twitter.com/kannozemi_wako/status/1330469198892474368?s=21

「解けるかな？一問一答！」

制作者：ひなちゃん

作成した一分動画の紹介



最近あった驚いたこと
早朝のウォーキング中に
奥から赤ん坊の声が聞こえ
ためきの鳴き声で

第二問

第二週目の動画より

児童相談所虐待相談ダイヤルの3桁の番号は何でしょう？



動画URL ● https://twitter.com/kannozemi_wako/status/1332965250312724480?s=21

オリジナルポスターの作成

和光大学 かののゼミ



《主な活動内容》

- ・本紹介&POP制作
- ・1分動画

▶はじめまして！かののゼミです【自己紹介】

▶オレンジリボン1分チャレンジ！

▶チャイボラについて

▶189ってなにー??

▶解けるかな？一問一答！

Twitter

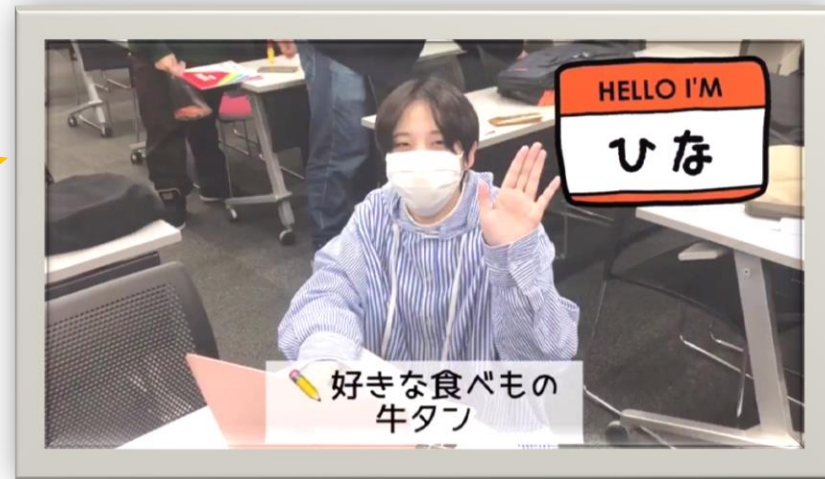
Instagram



デザイン担当として
ポスター、動画素材
を制作してくれました！

実はかののゼミ
オリジナルT
シャツのデザイ
ンもしてくれた
のですが…。

お見せする機会
が無くなってし
まいました。



和光高校での活動

対面講義を実施していた和光高校の一角をお借りし、POP、189の認知拡大を目的としたポスターの掲示を行いました！



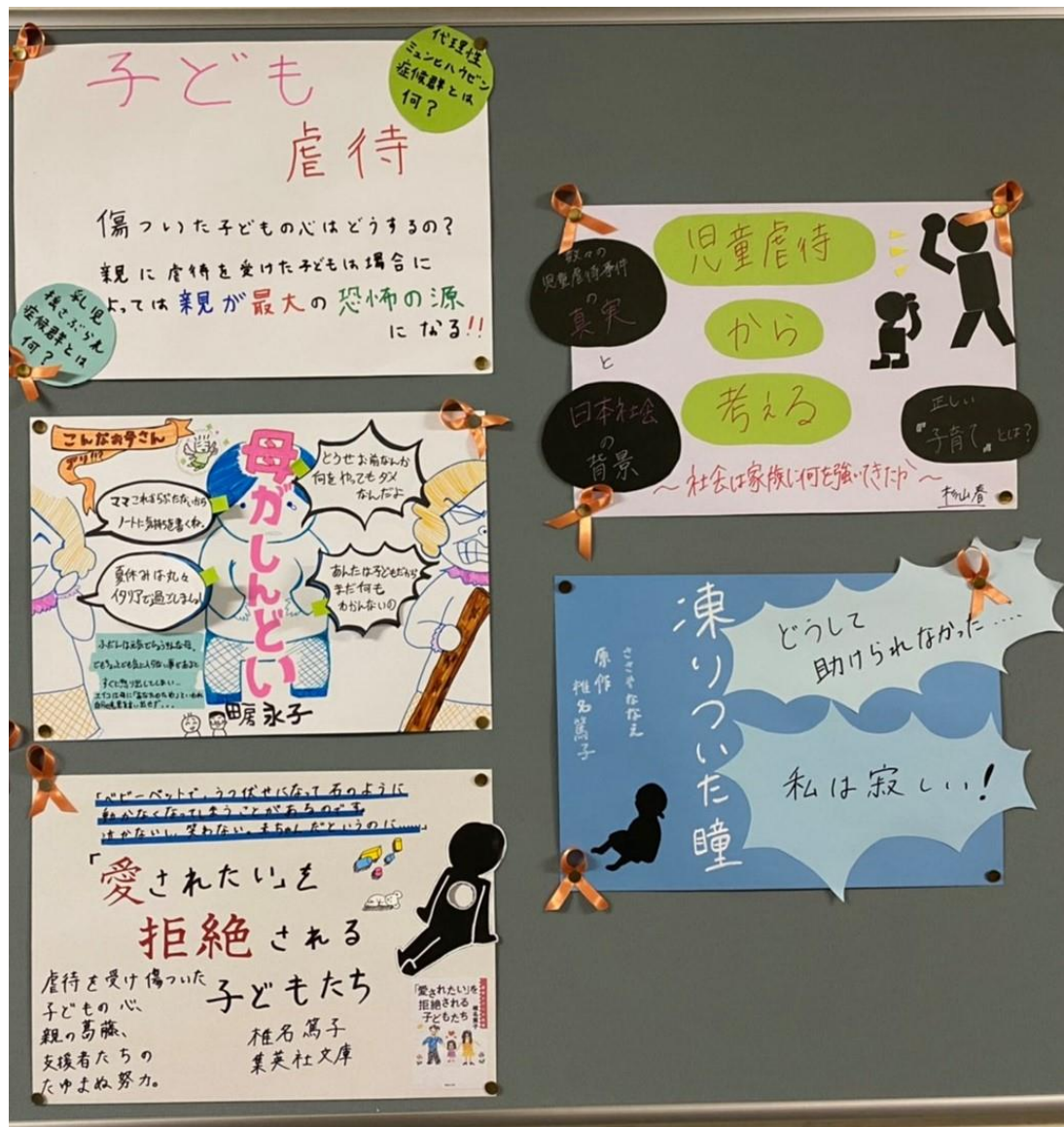
12月上旬
お忙しい中スペースを用意して
いただくことができました。



感染拡大防止のため、代表者
数名でお邪魔してきました！



和光高校での活動2



POPで紹介した書籍、計5冊を和光高校図書室に寄贈させていただきました。

こんにちは、和光大学
かんのゼミです。

このたびは、高校の一角を借りてオレンジボン運動をさせていただける運びとなりました。

皆さんはオレンジボン運動をご存知でしょうか。知らない方は是非、公式ホームページを開いてみてください。その内容は私たちと決して違う場所にあるものではありません。

また、今回 POP で紹介している本は、和光高校に各一冊ずつ寄贈させていただいています。興味のある方は是非手に取ってみてください！

そして最後に、これから大学進学や就職と社会に出ていく皆さんが、もしかすると人を救うことになるかもしれない3桁の番号(189)を、是非覚えていただければと思います。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

和光大学かんのゼミ

和光大学と和光高校、実はオレンジボン運動で関わるのは初！

今後も継続していきたい取り組みです！

松実高等学園高等部での活動

12月中旬

松実高等学園高等部でも、かんのゼミ生が制作したPOPを掲示する機会をいただくことができました！

評判は上々！

作成したPOPやポスターを見ていただく機会を、コロナ禍でもしっかりと確保することができました！

松実高等学園には実際に足を運ぶことができなかったのですが、郵送したPOPを高等部の学生に学内に掲示していただきました。



01

あやか (POP制作班)

私はこのオレンジリボン運動でPOP作成を担当させていただき作業を行う上で、虐待に対する考え方は様々あり得ることを学びました。共通の「虐待」というキーワードを元に本を選びPOPをそれぞれが作成する中で、虐待の原因・現状・対策法など着目するポイントが担当者によって異なることで様々な視点から虐待について触れられたと思います。また今回の活動を機に虐待について調べたことで、「189」（イチハヤク）などの情報をより広げることへの重要性を強く感じました。この活動が少しでも苦しんでいる子供たちへの力添えになることができたと思います。



02 えりぴ (POP制作班)

今回コロナ禍でのオレンジリボン運動の活動を行うということで、前例がなく、初めての挑戦が多く試行錯誤での活動になりましたが、その中でも特に困難であったという印象はなく、むしろ「どのようにしたら対面でなくとも活動が続けていけるのか」を考えるいい機会になったのではないかと思います。オレンジリボン運動の新しい在り方、発信の仕方を模索できた年だったなと思います。特に和光大学生が出したアイディアでネットを介して発信するというやり方は、積極的に行われていなかったのかなという印象を受けたので、良い経験になったと思います。



03

おのちゃん（一分動画制作班、広報担当）

Instagramでの広報担当をさせていただきました。拡散されるか最初は不安でしたが、動画や本のPOPの投稿を続けることでいいねをくれたり、コメントを残してくれる人がいて良かったです。「189」の大切さがわかったきっかけになりました。

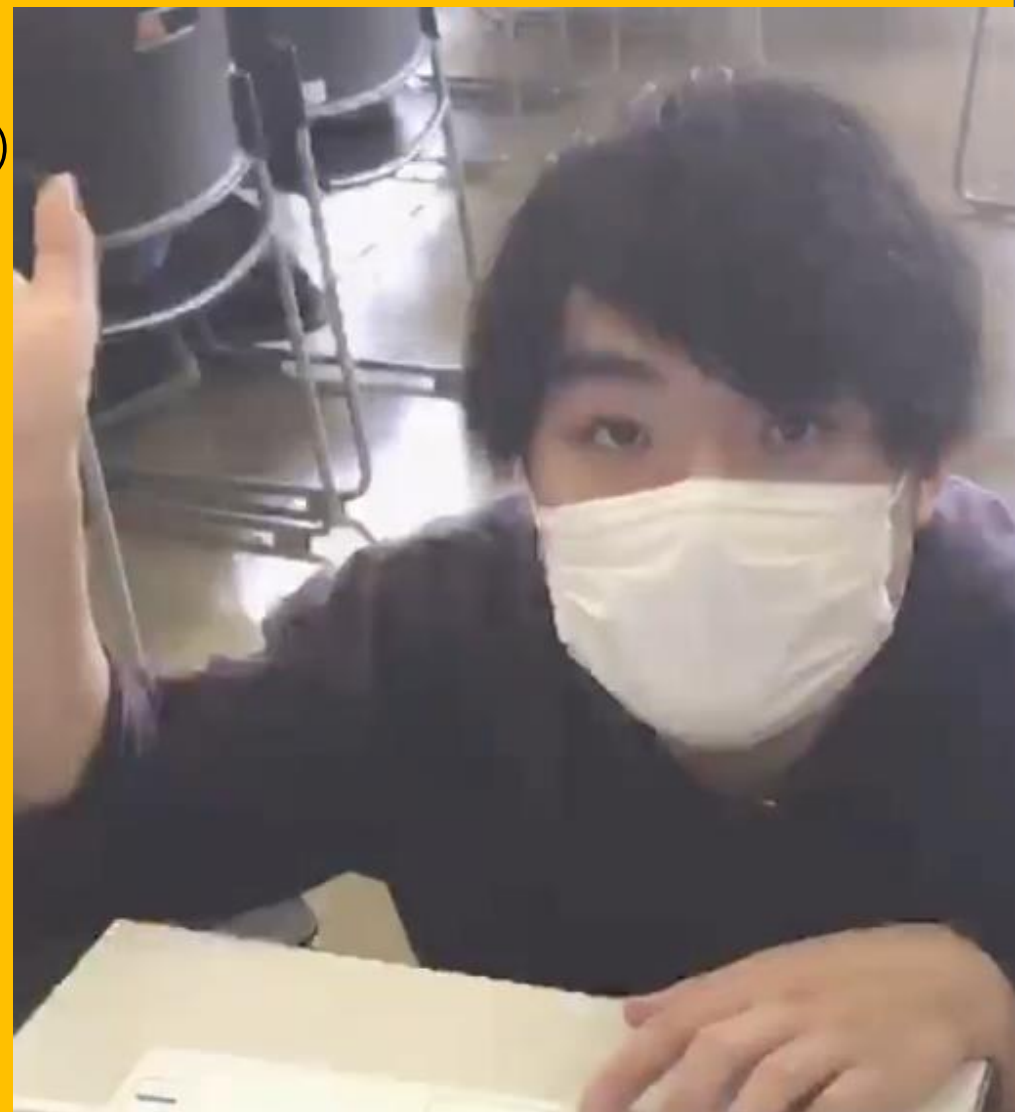


04

かいくん（一分動画制作班、和光高校担当）

「できない中で、できることを」この言葉の通り、今回のオレンジリボン運動はコロナ禍だからこそ発生する行動の制約とどのように向き合い、或いは上手くメリットに変えながら活動ができるのか、模索する数ヶ月間であったと感じています。不慣れなSNSの運用、ポスターデザインは他のゼミ生に頼りきりになる等、個人の技量に依存してしまうこともありましたが、だからこそ今のかんのゼミにしかできない活動になったのではないかと感じています。

ネットの情報は自ら消さない限り残り続けます。活動期間こそ終わったものの、動画やPOPが多くの人目に触れ続けるという意識を持ちながら、かんのゼミ生として活動していきたいです。



05

じょう（一分動画制作班）

私はオレンジリボン運動での役割として1分動画作成を行いました。power pointを使い動画を作成しましたが、動画作成の経験は無くはじめての試みとなりましたが、納得の行く内容に仕上げる事が出来ました。

今後、ゼミ活動を行なっていく上で非常に役立つ役割を全う出来たことを嬉しく思います。

また、今回のオレンジリボン運動はズームを使用して会議などを行い、直接会っての活動は少なく、そんな環境の中、計画・実行を行うことの難しさや、人と人との連携の大切さを身を持って経験出来ました。



06

ちい (POP制作班、広報担当)

以前より児童虐待・社会的養護について関心があり、関係する書籍をいくつか読んだことがありました。自分が勧めたい本について、見ている人に関心をもってもらうにはどのようなレイアウトにすれば良いか、一目で本の内容を出来るだけ伝わるようにするためにはどんな工夫が必要かなど、様々な角度から考えました。SNSの運用も同様です。

直接アプローチすることが難しい今だからこそ、POPやSNSの向こう側にいる受け取り手の事を、普段に増して意識出来たように思います。

SNSアカウントには、かんのゼミの活動を残してあります。今からでも見ることは可能なので、是非アクセスしていただけたらと思います。



07

ないない (POP制作班班長)

今回、POP制作を担当しました。最初は、POP制作なんてやった事ないし上手くできるか不安でした。しかし、この本をみんなに知ってもらいたいという気持ちがあったので、頑張りました。今回はコロナ禍ということもあり、不特定多数の方が訪れる図書館などでの展示が叶わなかったのですが、展示することを了承してくれた学校があり、制作したかいがあったと思いました。

最初、コロナ禍でのオレンジリボン運動は、正直できることなんてあるのだろうかと思っていました。しかし、いろいろ制限がある中でも自分たちができることを探し、考えれば案外なんとかなるものだと考えが改まりました。



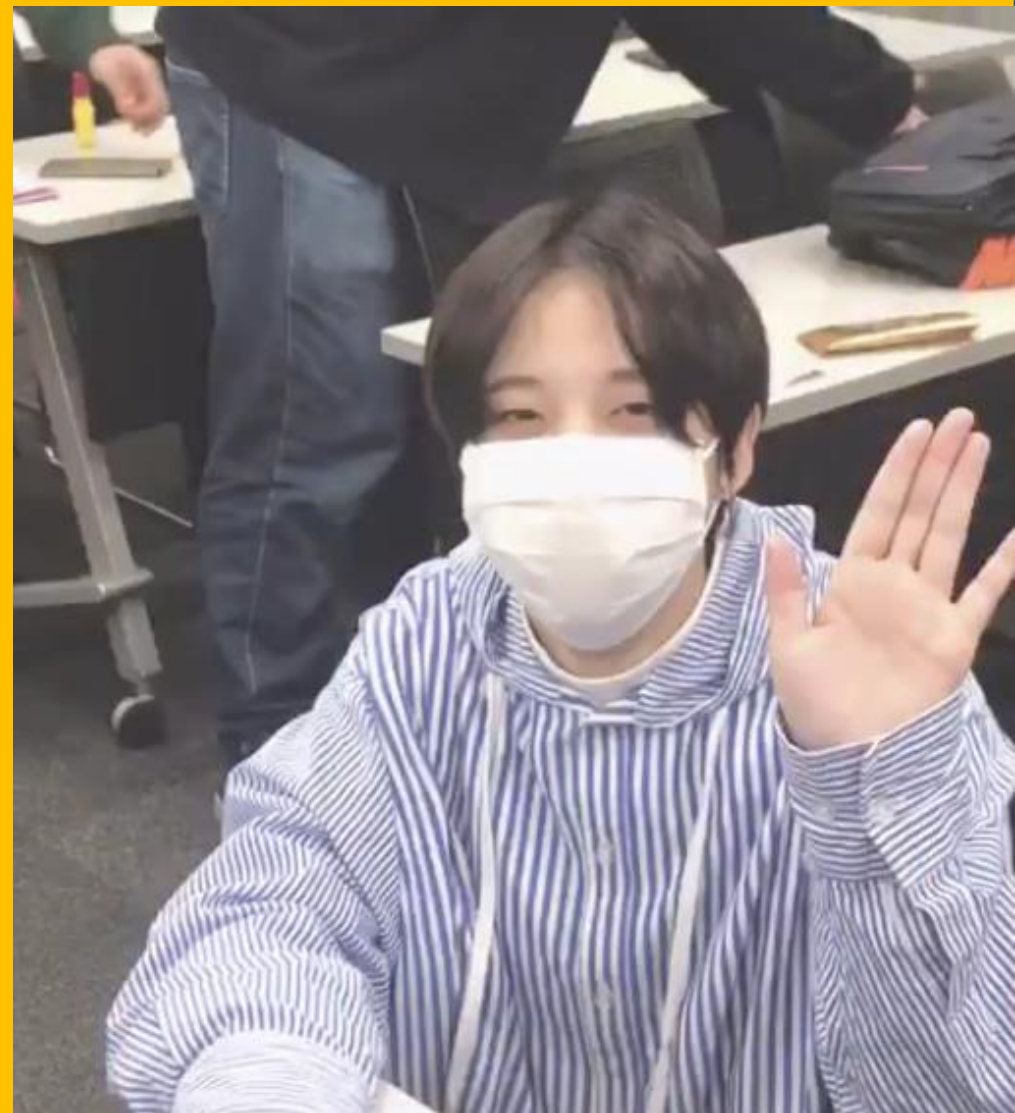
08

ひな（一分動画制作班、ポスター担当）

今回のオレンジリボン運動はコロナ禍での挑戦でした。行動の制限やオンラインでの活動に戸惑ったことも多くありました。しかし、ゼミ生全員と話し合いを重ねていくうちに徐々に形になっていき、やりがいが生まれました。

大きなテーマとして取り組んだ活動の1つがTwitter、InstagramなどSNSの使用でした。そこに毎年行なっている「POP作成」、新たな取り組みである「1分動画」を投稿しました。他にも、高校に展示などオンラインにとどまらない活動ができたことは、菅野ゼミならではの活動だと感じました。

オンライン報告会へは出場できませんでしたが、今回の経験を活かして今後のオレンジリボン運動の活動に繋げていけたら良いと思います。



09

みくちい（一分動画制作班班長）

今回初めてオレンジリボン運動に参加したことで、今まで知らなかった様々な著書やイベント、学生による活動に触れることができた。オレンジリボン運動自体もそうだが、もっと早く知っておけばと思うものが多く、今後自分と同じことを思うひとがひとりでも減ればと思いながら活動を行ってきた。特に力を入れた「189ダイヤル」の認知度拡大は重要な活動であったと思う。多くのひとが子どもに対し注意を向けることで気づけることがある。

「189ダイヤル」の存在は確実に認知度を上げてきてはいるが、まだまだ不十分だろう。まずは自分の周りから、救いの手をひとつでも増やせるように、これからもささやかながら尽力していきたい。

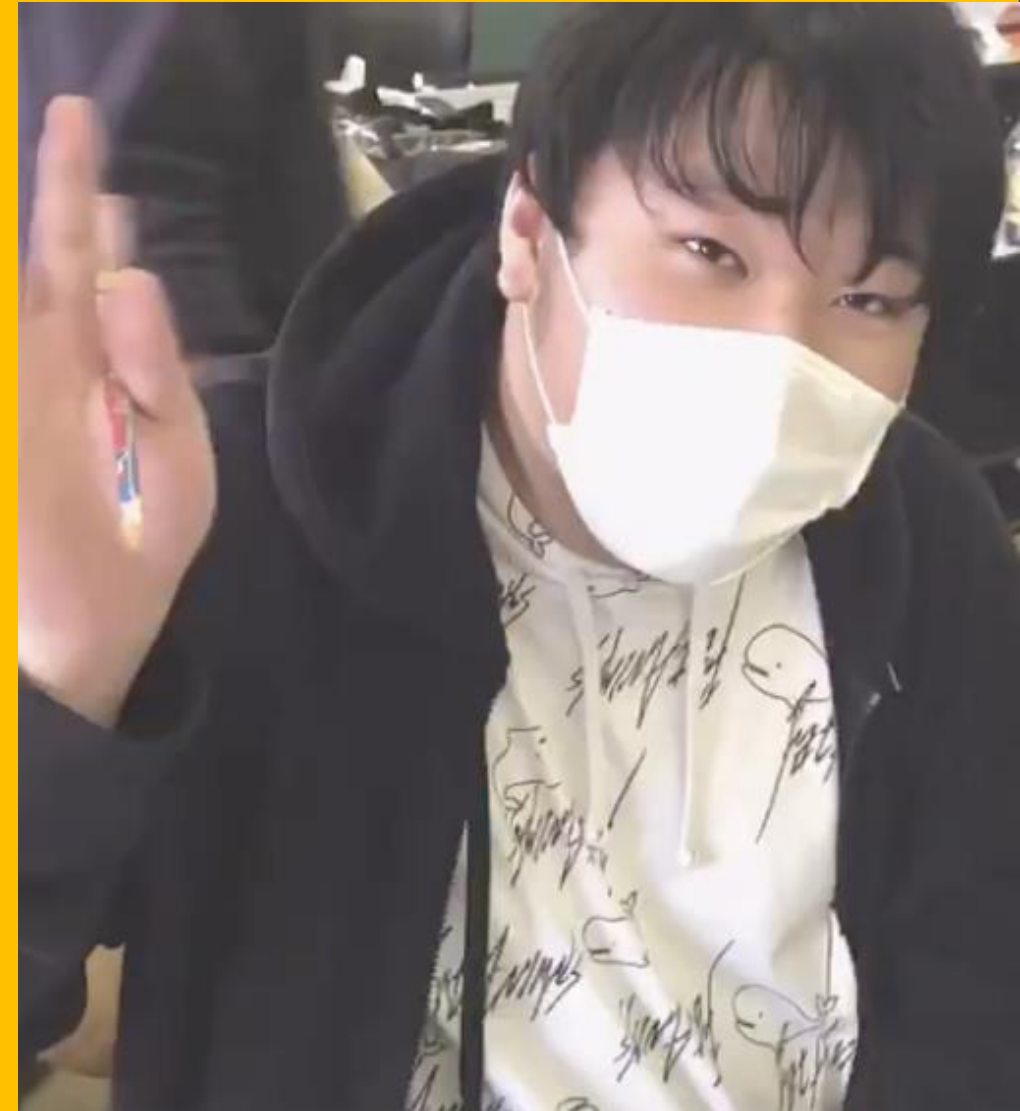


10

りゅうせい (POP制作班)

普段は虐待に関して座学の勉強だけを行い、その先の活動にまで踏み込む機会はありませんでした。オレンジリボン運動では虐待の防止を広めるための活動の機会が巡ってきたことで、虐待についての勉強をして終わるだけではなく、その先の活動にまで進めたことが1番大きかったと思います。

今回の活動では今までと違い、コロナ禍で制限された中での活動になったことです。しかし、10人で活動したことで、様々な案や役割分担もでき、オンラインや対面での活動も雰囲気良く、ポップ作り、1分動画制作、Twitterでの発信など学生らしい活動が制限された中で広く発信できたことが、コロナ禍での活動を通して意味があったと感じました。



11

せんせい（かんのゼミ 教授）

菅野ゼミでオレンジリボン運動に臨んで3年目、コロナ禍でもめげずにみんなでアイデアを出しながら取り組むゼミ生の姿をみてきました。先輩から引き継いだPOP制作に加え、Twitter、Instagramでの「1分動画」配信は、学生ならではのアイデアで感心しました。高校2校でのPOP展示も実現し、次回への布石になりました。

残念ながらオンライン報告会への出場はかないませんでした。が、Twitterを通して他団体を巻き込んで展開していた目白大学オレンジャーさんなど、他の団体の取り組みからも多くの刺激をいただきました。オレンジリボン運動を通して、我々ができることを考えながら、今後も学生と共に学んでいきたいと思っています。

